

菅沼聖隆 & 宇田奈津美

デュオリサイタル

2018 9/2 (日)

開演 15:30 開場 15:00

BUNROKU 文禄堤薩摩英国館



若手ギタリストの華麗なる饗宴



プログラム

傷跡 菅沼聖隆

ラブソディ・ジャパン 藤井真吾

子供の領分より

小さな羊飼い ゴリウオーグのケーキウオーク C.ドビュッシー

ギター協奏曲ニ長調 A.ヴィヴァルディ ジャン=マリー・レーモン編曲

特別ゲスト

ジャン=マリー・レーモン

入場料 <予約制 当日500円増>

一般 2500円 シニア 学生 2000円

予約申し込み 大阪ギタースクール

TEL 06-6992-3804 masami@osaka-gs.info

後援 猪居ギター教室 06-6324-2376

日本ギタリスト会議



守口市本町2丁目4-15 06-7181-4175

京阪守口市駅 東出口より徒歩3分

地下鉄谷町線③番出口より徒歩2分



菅沼聖隆プロフィール

1996年東京生まれ、5歳より村治昇氏に師事。

坪川真理子氏、金庸太氏両氏に師事。

中学3年生頃、作曲和声学、ソルフェージュを三上徹氏に師事。

2014年10月、スペインのセビーリャ高等音楽院へ留学、フランシスコ・ベルニエール氏に師事する。2012年～現在、日本国内外の多数のコンクールにおいて受賞・入賞を果たす。パヴロ・マルケス、ウィリアム・カネンガイザーなどの海外のギタリストのマスタークラスにも積極的に受け、2011年の庄内国際ギターフェスティバルでは最優秀生を受賞。2015年6月に留学先のセビーリャ高等音楽院にてギター最優秀生に送られる「Matrícula de honor」を受賞。同年11月、さらに、クラシック以外にも積極的な活動を始め、南米フォルクローレ、ラテン、そしてフラメンコギターなど、多くのレパートリーを弾きこなす小林智詠氏と共に「Masa&Chiei」として2012年07月27日にラテン音楽系ファーストアルバム「El baile de la Juventud (若者の舞踏～)」をリリース。さらに、2017年6月21日ラテン系のレパートリーを集めた。

「Seriously Laughing」もソロアルバムとしてリリース。

様々な活動を繰り広げ、今現在もスペインで研鑽を積んでいる。

受賞歴：

2012年第34回ジュニア・ギターコンクール第1位と最優秀賞

第36回GLC学生ギターコンクール第1位とGLC賞

第30回スペインギター音楽コンクール第1位

2013年第44回クラシカル・ギターコンクール第1位

第3回イースト・エンド国際ギターコンクール第1位

2014年第41回日本ギターコンクール第1位

2015年第5回グレドス・サン・ディエゴ国際ギターコンクール第2位

第6回セビーリャ国際ギターコンクール第2位と聴衆賞

第31回アンドレス・セゴビア国際ギターコンクール(アルムニューカル)

第3位、聴衆賞と演奏優秀賞

2017年第8回セビーリャ国際ギターコンクール第1位



宇田奈津美プロフィール

5歳からギターを始め柴田健氏に師事。

現在新井伴典氏に師事。また稲垣稔、田口秀一、今村泰典、佐々木忠、トーマス・ミュラー＝ペリング、フラビオ・クッキ、ローラン・ディアンズ、スサーナ・プリエト、アレクシス・ムズラキス(Duo Melis)、パヴロ・マルケス、ミゲル・トラパガ、リカルド・カジェン、ジュディカエル・ペロワ各氏のマスタークラスやレッスンを受講。相愛大学音楽学部を特別奨学生として卒業。卒業時に「学長奨励賞」を受賞。同大学卒業演奏会出演。

「日本ギターコンクール」小学生、中学生、高校生部門全て第1位。同コンクールオヌール部門第2位。公益社団法人日本ギター連盟主催「新進芸術家ギタリストの饗宴」に選出される。

「第2回オールジャパンギターコンクール」第1位。

同連盟が定めるディプロマを取得。

第12回大阪国際音楽コンクール大学生部門アブニール賞受賞。

2013年、2014年度公益財団法人青山財団奨学生。

2015年に青山音楽記念館パロックザールにて初のソロリサイタルを開催し、関西を中心に演奏活動を行っている。

現在、(株)天理楽器、ドレミ音楽スクールクラシックギター科講師。

特別ゲスト

ジャン＝マリー・レーモン Jean Marie Raymond

「1949年、フランスで生まれる。A.ディアス・カーノにギターの手ほどきを受ける。その後、パリのエコール・ノルマル音楽院でギターをポンセ、J.イノホサ、作曲と指揮法をD. pu トンデ エ イ ン、Y. デボルテに師事する。

1971年、米国でのコンサート・ツアーで大成功を収める。

明石市出身のギタリスト、稲垣稔氏(故人)とは30年来の親交があり、これまでに2度、来日している。彼はギター曲の作曲家でもあり、多くの作品(集)が出版している。作風はフランスのシャンソンのような詩情に満ち溢れている。また、彼の曲には、どこか日本人の心に郷愁を呼び起こすものがある。日本人や日本の文化にとっても興味を持っている。来日の折にはいつも、その出会いを楽しむと同時に、触れ合いを大切にしている。

